

開催期：令和2年7月（書面会議）

1、郵送数

委員：6名

2、内容

- ・令和2年度「学校経営計画」について

3、ご意見

<令和2年度学校経営計画について>

①承認の賛否（委員6名）

→ 承認する 6名 承認しない 0名

上記のように、「令和2年度 学校経営計画及び学校評価」は承認されました。

②ご質問

- ・中学生、保護者に「かわち野高校」は、これだ!! とアピールする所は何ですか？
- ・校内授業研究会の参加人数はどれほどでしょうか？ また、具体的成果は見られているのでしょうか。
- ・基礎学力調査のデータの授業改善への活用について、後日教えてください。
- ・コース制が導入されて3年が経っています。その成果と課題、また以前の生徒との変容があれば教えてください。
- ・支援コーディネーターは現在何年目の教員がなさっているのでしょうか。SCとの関係性は？
- ・学校をすべての生徒にとって、安全で安心な場所にするための、生徒に対しての具体的な取り組み（アンケート以外で）を教えてください。
- ・年間遅刻総数が、ここ数年増加傾向にある中で、2年後の目標数値を揚げておられます(2000人)が、具体的にどのような取り組みや指導を実践していかれるご予定なのか、教えてください。

③ご意見

- ・わかりやすい学校経営計画だと思いました。文章に表れてこない行間にも、先生方が日々努力、奮闘されているお姿を拝見する思いがいたします。人権教育に重点を置かれていること、若い先生方を中心に授業研究を進めておられること等、大変心強く思いました。大変な状況下でのスタートとなりましたが、地域の学校として、ともに協力し頑張っていきたいと思えます。よろしく願いいたします。
- ・本年度は全教職員が志願者増加に向けて、ベクトルを合わせるなどの強いメッセージが必要だと思います。
- ・定量目標が目立ちますが、定性目標も具体的に知りたいです。
- ・全生徒が、目標を持った進路へ行くことを望みます。
- ・校長をトップに学校全体で頑張っておられる様子がよく伺われます。意見というより感想を述べさせていただきます。私自身わずか3年間ですが学校長として心がけていたことは、若手教員の中から毎年一人ずつリーダーを作ることでした。そのシステムが「授業研究会」でした。それを委員会組織とし、その長を5~10年程度のヤングミドルリーダーに務めさせ、授業研究を学校全体で行えるようにするチームビルディングを経験させ、一定の効果があつたように思われます。御校に置かれましても、校内授業研究会を通して、若手のリーダーを育てていただければと思います。
- ・人間構築力が弱い現在の生徒たちに、ソーシャルスキルトレーニングを実施されるのはとても良いことだと思います。

令和2年度 第1回大阪府立かわち野高等学校学校運営協議会 Q&A

Q&A	協議委員様からの質問項目と事務局12名からの回答
Q1	・中学生、保護者に「かわち野高校」は、これだ!! とアピールする所は何ですか？
A	生徒と対話して、さまざまな課題を解決に導こうとする姿勢。行事に本気になれる生徒たち。
A	普通科の学校でありながら、「専門コース」という特定の分野に特化した授業展開しているため、将来の進路に沿った授業を選択できる場所だと思います。
A	専門コースを含め、幅広い進路希望を実現できる点です。迷っている、未定の生徒を主体的な進路の実現に導く指導を目指しています。専門コースの魅力をさらに高め、かつ広く知っていただけるように特色をアピールしていきます。ブレイクダンス部は大阪府下でも数少なく、サッカー部はスペイン人コーチを招いての指導を行うことで今後さらに特色になる予定です。
Q2	・校内授業研究会の参加人数はどれほどでしょうか？ また、具体の成果は見られているのでしょうか。
A	10～20名程度。成果を検証する場がないので何とも言えません。個人的には、研究会で得た知識をおうと研鑽しています。
A	昨年度は初任教員2名、10年研対象者を含む10名でした。研究授業や相互授業見学週間などを実施しました。今年度は、新型コロナの対応に追われて従来の形の委員会は立ち上げないままになっています。代わりに(と言えるかどうかわかりませんが)急務であるオンライン授業委員会が授業実施に向けて動いています。
Q3	・基礎学力調査のデータの授業改善への活用について、教えてください。
A	生徒たちに声掛けを行い、学びのモチベーション向上に活用しています。
A	これまでは、返却された結果を生徒自身が自己分析することが主になっていました。今年度より事前指導、事後指導を行い、調査の主旨を理解し、モチベーションを高めた上で、基礎力診断テストを実施しています。1回目と2回目の調査結果の比較や相関が待たれます。
Q4	・コース制が導入されて3年が経っています。その成果と課題、また以前の生徒との変容があれば教えてください。
A	コースの意義を感じて取り組んだ生徒たちは、結果を残していると思われませんが、漠然とコース選択した生徒たちの目的意識の低さは目立ちます。
A	コース制が導入されたとはいえ、ベースは普通科になったということで、生徒にとっては多種多様であった選択科目の数が絞られたといえます。生徒の希望による少人数編成の講座が減ったことは残念ですが、落ち着いて一斉授業を受けつつ学びを進め、進路実現をさせたいというのが教職員の思いです。コース制導入により生徒が変化したとはあまり感じません。時代の変化か、生徒層の変化なのか相関はわかりませんが、全体的におとなしくはなっていると思います。
A	情報技術専門コースでは、就職に向けて資格を取得しようという意欲をもって努力している生徒が多い。また、難易度の高い資格に合格する生徒も出てきていることが成果としてあげられる。能力だけでなく意欲にも大きな差がある生徒への指導が課題である。
A	スポーツサイエンス専門コースでは、運動だけでなく野外実習などの様々な活動に積極的に取り組む生徒の姿が見られることが成果としてあげられる。この活動で得た力を卒業後の進路に、どう生かしていくかが課題である。 総合系は大学進学希望者だけでなく、専門学校進学希望者、就職希望者も含まれる。特別な科目に偏る

	ことなく様々な科目を学び、一般教養を身につけられることが特長だが、その中で大学進学希望者の勉強に対するモチベーションを維持し、いかにして希望の進路につなげていくかが課題である。
A	専門コースの持つ目標が、はっきりと明確にされていないため、授業内容が担当者に依存しているように思います。
Q5	・支援コーディネーターは現在何年目の教員がなさっているのでしょうか。SCとの関係性は？
A	各学年に支援コーディネーターを置き、2人は10年以上、1人は30年以上の教員です。SCは養護教諭が担当していますが、SSW担当は支援Co.であり、連絡を取り合って機能させています。
Q6	・学校をすべての生徒にとって、安全で安心な場所にするための、生徒に対しての具体的な取り組み(アンケート以外で)を教えてください。
A	登下校の安全運転の呼びかけ、「ありがとう」という感謝の言葉、「おはよう」「さようなら」という挨拶など何気ないコミュニケーションの教員が積極的に行っています。
A	当然のことではありますが、生徒が相談しやすい教職員との関係づくりに努めています。特に、学年室(担任室)や保健室は生徒の心身の不調を直接受け止める場所です。生徒相談室も昼休みに定期的に開けていますが、年度によって傾向が違い、今年度は来室者がありません。
Q7	・年間遅刻総数が、ここ数年増加傾向にある中で、2年後の目標数値を揚げておられます(2000人)が、具体的にはどのような取り組みや指導を実践していかれるご予定なのか、教えてください。
A	遅刻防止週間や遅刻0の日を各学年で設定したり、欠席、遅刻0の日があれば、掲示物で知らせたりしています。毎月、生指部長が発行する新聞に1か月の遅刻者数を報告し、今後の展望について書き込みをしています。